

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成 20 年 8 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1170900573
法人名	株式会社 関東メディカル・ケア
事業所名	グループホーム フローラ久喜
所在地	〒346-0014 埼玉県久喜市吉羽1-6-29 (電 話) 0480-24-4477

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年8月20日

【情報提供票より】(平成20年8月8日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 11人, 非常勤 10人, 常勤換算 8.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	25,000円+実費	
敷 金	有( 250,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 900円				

### (4) 利用者の概要(8月8日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	フローラ大田小通りクリニック、めぐみ歯科、蓮田病院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、駅から徒歩5分の閑静な住宅街にあり、平成17年に開設されて3年目を迎えている2階建て2ユニットのグループホームである。ホームの近くには公園などがあり、利用者の散歩コースにもなっていて、建物が周辺区域の中でも違和感がなく馴染んでいる印象を受ける。地域との交流について報告・話し合いが行われている運営推進会議等を通じて、その効果が出てきており、実際、地域との関わりを持つために、各種行事等での交流や日常のふれあいに努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で、改善課題として挙げられた点に前向きに取り組んでおり、運営推進会議の定期開催に尽力している。また、地域との連携については日常的なつきあいのほか、各種行事等で交流にも努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、管理者と各階のフロア長で記入したあと、職員に回覧した形を取っており、職員全員での取り組みには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの現状や役割、地域との交流について報告や話し合いが行われている。この結果、ホームに対する理解が深まり行事等での地域との交流や防災訓練時の地域住民の協力が得られるような効果の期待にもつながっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態について伝えている。また、金銭管理についてもホーム便りと一緒に送付し、状況報告に努めている。なお、管理者は、家族等が意見を出しやすいように家族会の設立を提案しているところである。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には入られていないが、運営推進会議を通じて地域との連携が構築されつつある。ホーム側からも行事に招くなどして交流を図り、地域に溶け込めるように努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をつくりあげている。理念には、「整理・整頓・明るい笑顔」を挙げ、地域の中でその人らしく生活を続けていけるように取り組んでいる。		ホーム独自の理念として、地域密着型のホームを目指していかれることが期待されることから、これまでの理念でよいか見直しを検討されることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、朝礼時の申し送りの際に理念を共有して実現に向けて取り組み、常に元気で笑顔でやりましょうと話されている。また、共用空間等が散らかっていれば注意している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺は、振興住宅地で現在自治会には加入しておらず、老人会はあっても活動の実態がないようである。このため、ホームの行事等に地元自治会長などを招待して、交流を図りながら、ホーム側から地域へ溶け込もうと努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を活かして改善に向けた取り組みを実践しており、運営推進会議を隔月で開催するようになった。この結果、自治会長や民生委員などに関わりを持つようになってきている。		自己評価については、職員全員で関わることを望まれる。これまでのケアを振り返る視点でも大きな役割があるため、職員も一緒に自己評価に取り組まれることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市担当者、地域包括支援センター、自治会区長、利用者、利用者家族等の参加を得て開催されている。会議では、ホームの現状や役割、地域との交流について話し合いが行われ、結果として、これまで以上にホームに対する理解が深まるようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの入居利用状況について報告している。また、介護度が変更になった場合なども連絡を入れるなど、市との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは利用者の暮らしぶりや健康状態について面会時に伝えるとともに、ホーム便り送付時は金銭管理についても一緒に同封して報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、家族等が意見を出しやすいように家族会の設立を提案しているが、まだできてはいない。		意見箱を設置したり毎月の請求書にアンケートを同封するなど工夫し、家族などから意見や不満、苦情を引き出すようなシステムづくりが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えるべく努力をされている。利用者に不安や心配を与えないように管理者や職員でカバーしており、離職されたことでの利用者へのダメージはあまり強くない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体の会社で行われる研修は、2か月に1回のペースで開催されて、研修を受けられるようになっている。職員は業務の一環として研修を受けており、職員を育てる取り組みはなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市より、市内のグループホーム3か所の交流事業が提案されている。ホーム内の介護業務に追われてしまうなどの現状があり、職員同士の相互訪問等まではできていないが、今後は交流活動を積極的に展開していきたいと検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学をしてもらったり、空き部屋などがあれば体験入所できるように体制がつけられており、職員や他の利用者、その場の雰囲気に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、利用者本人から学ぶこともあり、利用者と職員は共に学び支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が自分の思いや意向を十分に出せない時などは、日頃の生活の中で工夫して、本人がどうしたいのか表出できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のフロア会議を通じて、職員の意識統一を図るようにし、介護計画を作成している。フロア会議では、職員の気づきやアイデアが介護計画作成に活かされている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じての見直しは、フロア会議等で3か月・6か月ごとに行われている。この他に利用者の状況の変化に応じて見直しを行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容や買い物などの支援を行っている。本人や家族からの要望に対しては、柔軟に対応できるように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望する医療機関での受診を可能にしている。かかりつけ医への受診では、2か月に1回は家族にも努めて対応してもらうようにしている。家族がどうしても対応できない場合には、ホームで対応することになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	胃ろうを造設された利用者の受け入れを行っている。現時点では日常生活に問題はなく、落ち着いている。このことから終末期に向けた家族や職員との話し合いはされていない。ホームの方針としては、終末期ケアの受け入れを示してはいる。		終末期ケアの受け入れにあたり、具体的な方向性を家族及び職員間で共有できるように十分な検討しておくことが望まれる。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録等については、他の利用者や家族の目に触れないように保管されており、他者へ情報が漏れないように工夫している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、近くの公園に散歩へ誘うが、行きたくない方には決して無理強いせず、個々のペースに合わせてホーム内で過ごしてもらうように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるように、利用者と職員と一緒に食事したり、準備や片付けなどを行っている。また、時々外食も取り入れ出かけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前と午後ともに入浴が可能である。入浴を拒まれる利用者については、家族の協力を求めたり、また、声掛けのタイミングや仕方などを工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に洗濯物を畳んでもらったり、居室の整理や掃除をなるべく手伝ってもらうなど、利用者の持てる力を活かして役割のある生活を送れるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよければ近くの公園に散歩に出かけたり、希望があれば買い物などに行くなど、気軽に戸外へ出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵を掛けないケアに取り組んでいる。夜間は家族が面会に来られるように8時ごろまで空けている。1階と2階の出入り口には鍵を掛けているが、居室には鍵は掛けていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	初期消火や消防署への通報訓練及び避難訓練などを消防署の協力・指導を受けて行っている。今後は、地域の自治会長や民生委員、周辺の方々の協力を求めて行うように検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量の確保ができるようにカロリー計算したり、日々食事量や水分量を記録して、不足気味な方への配慮も十分にされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の空気入れ替えや、利用者の様子に合わせて温度や湿度の調整を行い、季節感を採り入れながら居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して暮らせるように、使い慣れたものや好みのもを持ち込めるように努めている。部屋には、火気類の持ち込みは遠慮してもらっている他は、特に制限はない。理念に基づき、きれいに整理整頓されている。		